



二十一年

早稲田大学図書館
文書 27
A 73



子

二十一年

十一年

二十年

支那通金

四月。三百四。百五十四

二十一年

四月。百四

神武天皇即位紀元二千五百四十八年

明治廿一年

戊子閏年

懷中日記

泰西一千八百八十八年

清國光緒十四年

懷中日記序

予曾テ佛國千八百七十八年ノ新ヌーヴヘルアジャンヌ日記簿ヲ外
人某氏ニ得タリ之ヲ譯者ニ質スニ即チ一歲
中ノ日記簿ニシテ紀事及日計月計ヨリ年計
ニ至ル迄ノ位地ヲ設ケ之ニ繋ルニ新古雜錄
ヲ以テセリ因テ今其體式ニ倣ヒ以テ是書ヲ
編ス庶幾クハ人々日々ノ紀事ト會計トヲ明
カニシ年間ノ閱歷ヲ異日ニ見ルノ便ヲ得セ
シメント云爾

明治十二年十二月

印刷局長誌

曆略年一十二治明

滿	新	日一月每							干支	七值	四二		戊子
		陰曆	潮後	干前	潮後	滿前	日	出			節	十	
廿九日	十三日	丁亥十一月十八日	分○時四一	分○時二二	分六時五〇	分六時三一	分四時三七	分六時五二	辛未	日曜	大寒 二十日 後一分	小寒 六日前 五時二分	一月大
廿七日	十二日	十二月十日	分一時四六	分一時二六	分七時五六	分七時三六	分五時〇七	分六時四三	壬寅	水曜	雨水 十九日 後一分	立春 四日後 五時一分	二月閏
廿八日	十三日	戊子正月十九日	分一時二八	分一時〇八	分七時三八	分七時一八	分五時三五	分六時一二	辛未	木曜	春分 二十日 後五分	啓蟄 五日前 四時五分	三月大
廿六日	十一日	二月二十日	分二時三〇	分二時〇九	分八時四一	分八時一九	分六時〇二	分五時二九	壬寅	日曜	穀雨 二十日 前五分	清明 四日後 五時三分	四月小
廿五日	十一日	三月二十日	分二時五九	分二時三六	分九時一一	分八時四七	分六時二六	分四時五〇	壬申	火曜	小滿 廿一日 前四分	立夏 五日前 三時一分	五月大
廿四日	十日	四月二十日	分四時二七	分四時〇〇	分一〇時四	分一〇時一	分六時五〇	分四時二七	癸卯	金曜	夏至 廿一日 前四分	芒種 五日後 四時一分	六月小
廿三日	九日	五月二十日	分四時四八	分四時二四	分一〇時〇	分一〇時三	分六時五九	分四時三〇	癸酉	日曜	大暑 廿二日 後八分	小暑 七日前 二時五分	七月大
廿二日	八日	六月二十日	分五時三七	分五時一二	分一〇時五	分一〇時二	分六時四四	分四時五〇	甲辰	水曜	處暑 廿三日 前二分	立秋 七日後 〇時五分	八月大
二十日	六日	七月二十日	分六時五二	分六時二四	分一〇時三二	分一〇時〇	分六時〇七	分五時一四	乙亥	土曜	秋分 廿二日 後四分	白露 七日後 二時五分	九月小
二十日	五日	八月二十日	分七時三〇	分六時四六	分一〇時八	分一〇時四	分五時二四	分五時三七	乙己	月曜	霜降 廿三日 前八分	寒露 八日前 五時一分	十月大
十九日	四日	九月二十日	分九時一四	分八時四三	分一〇時〇〇	分一〇時二六	分四時四五	分六時〇四	丙子	木曜	小雪 廿二日 前五分	立冬 七日前 八時二分	十一月小
十八日	三日	十月二十日	分九時二八	分九時〇一	分一〇時一五	分一〇時四六	分四時二七	分六時三四	丙午	土曜	冬至 廿一日 後六分	大雪 七日前 一五時五分	十二月大

日 一 月 一 日 辛未

刑法治罪法ヲ施行ス 明治十五年

新年萬福
 少の善内は由儀
 邦國兩陛下才山
 昭宮口即

唐新難若如高劇

日 一 月 二 日 壬申

各國公使等朝見新正ヲ賀ス是ヲ外國公使朝賀ノ始トス 明治十五年

唐清葉下母嫁の子供
 皆の佳有似然博也

其		二	
日	節	節	節
廿八	一月一日	二月三日	三月十七日
廿九	一月二日	二月三日	三月十七日
三十	一月三日	二月三日	三月十七日
初一日	一月四日	二月三日	三月十七日
初二日	一月五日	二月三日	三月十七日
初三日	一月六日	二月三日	三月十七日
初四日	一月七日	二月三日	三月十七日
初五日	一月八日	二月三日	三月十七日
初六日	一月九日	二月三日	三月十七日
初七日	一月十日	二月三日	三月十七日
初八日	一月十一日	二月三日	三月十七日
初九日	一月十二日	二月三日	三月十七日
初十日	一月十三日	二月三日	三月十七日
十一日	一月十四日	二月三日	三月十七日
十二日	一月十五日	二月三日	三月十七日
十三日	一月十六日	二月三日	三月十七日
十四日	一月十七日	二月三日	三月十七日
十五日	一月十八日	二月三日	三月十七日
十六日	一月十九日	二月三日	三月十七日
十七日	一月二十日	二月三日	三月十七日
十八日	一月二十一日	二月三日	三月十七日
十九日	一月二十二日	二月三日	三月十七日
二十日	一月二十三日	二月三日	三月十七日
廿一日	一月二十四日	二月三日	三月十七日
廿二日	一月二十五日	二月三日	三月十七日
廿三日	一月二十六日	二月三日	三月十七日
廿四日	一月二十七日	二月三日	三月十七日
廿五日	一月二十八日	二月三日	三月十七日
廿六日	一月二十九日	二月三日	三月十七日
廿七日	一月三十日	二月三日	三月十七日
廿八日	二月一日	二月三日	三月十七日
廿九日	二月二日	二月三日	三月十七日
三十日	二月三日	二月三日	三月十七日

火 一 月 三 日 癸酉

始テ元始祭ヲ行フ
明治五

水 一 月 四 日 甲戌

八日以下ノ五節ヲ廢シ神武天皇即位日天
長節ヲ以テ祝日ト爲ス
明治六

政事始由勤
士時鹿鳴傳列立食
同盤食之合契

長政
祖親屬者皆
留神也

木 一 月 五 日 乙亥

醮宴ヲ百官ニ賜ヒ兼テ改曆ヲ祝ス
明治六

新年當層参省賜
酒饗十帖

清公侯
繁侯三年
振起達

夜吉井
宅於
新年初
宴集

金 一 月 六 日 丙子

公卿ノ涅齒黠眉古制ニ非サルヲ以テ必シ
モ循守セサルヲ令ス
明治元

月 一 月 九 日 己 卯

修史館ヲ廢シ内閣ニ臨時修史局ヲ置ク
明治十九

火 一 月 十 日 庚 辰

始メテ東京琉球ノ間ニ郵船ヲ往復セシム
明治十七

田向院前カヲ觀有井口車
本田川留置也

土 一 月 七 日 丁 丑

足利義政薨ス
延徳二

日 一 月 八 日 戊 寅

小學生徒ノ學齡滿六年ヨリ十四年ニ至ルヲ定ム
明治八

田向院前カヲ觀有井口車
本田川留置也

金 一 月 十 三 日 癸 未

内大臣從一位大勲位公爵三條實美ニ終身
年金五千圓ヲ給スルノ詔ヲ發セラシム
明治十九

土 一 月 十 四 日 甲 申

陸軍部内ニ憲兵ヲ設ク
明治十四

水 一 月 十 一 日 辛 巳

武藏國秩父郡和銅ヲ獻ス宣詔シテ元ヲ改
ム和銅元

木 一 月 十 二 日 壬 午

始メテ楮幣ヲ用フ
建武元

火 一 月 十 七 日 丁 亥

孝明帝諸公卿ヲ召シテ米國ノ事ヲ商議ス
五安政

水 一 月 十 八 日 戊 子

幕府始メテ使節ヲ米國ニ遣ス
元萬延

日 一 月 十 五 日 乙 酉

左道ヲ以テ人民ヲ蠱惑スルヲ禁ス
明治 六

午前九時半汽車横濱
送徐承祖偕同郵船
午後膳ヲ召シテ
西御座ヲ招物贈ラレ
〇〇〇〇

月 一 月 十 六 日 丙 戌

玉川水道成ル
承應 二

吉井不快

土 一 月 廿 一 日 辛 卯

栃木縣廳位置ヲ下野國河内郡宇都宮ニ改定ス
明治十七

日 一 月 廿 二 日 壬 辰

金穀ノ進獻ヲ停ム
明治五

福羽ノ牛糞ヲ村長面會
及即分傳アリ有使令ハ
ル云云申シ者大

木 一 月 十 九 日 己 丑

通用貨幣ヲ鑄解シ若クハ毀傷スルヲ禁ス
明治十

金 一 月 十 二 日 庚 寅

諸道ノ關門ヲ廢ス
明治二

癸巳 日 三 廿 月 一

薩長肥土四藩ヨリ藩籍ヲ奉還セント上表
ス明治

皇太后也 謹長所 勞不 多 頌

甲午 日 四 廿 月 一

參與大久保利通遷都ノ議ヲ上ル
元明治

水 一 月 廿 五 日 乙未

東京府下第一大區ノ邏卒ヲ廢シ巡查及ヒ
番人ヲ置ク明治

木 一 月 廿 六 日 丙申

函館札幌根室三縣並北海道事業管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳
ヲ札幌ニ支廳ヲ函館根室ニ置ク明治

金 一 月 廿 七 日 丁酉

御諱缺番ノ制ヲ廢ス
明治 五

土 一 月 廿 八 日 戊戌

摺附木製造ニ黃燐ヲ用ユルヲ禁ス
明治 十 八

日 一 月 廿 九 日 己亥

卒ノ世襲スルモノヲ士族ト爲ス
明治 五

清國公使於唐昌來リ兩國
間交渉事ヲ議ス
方同功及黃會

月 一 月 三 十 日 庚子

東京郭内ノ疆界ヲ改定ス
明治 四

吉井訪同軍 築地
又中井訪 在
昔井訪 在
淡井訪 在
大隈

一月會計					
日次	受方摘要	円	拂方摘要	円	
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					
十三					
十四					
十五					
十六					
十七					
十八					
十九					
二十					
廿一					
廿二					
廿三					
廿四					
廿五					
廿六					
廿七					
廿八					
廿九					
三十					
卅一					
總計					
殘高					
比較合計					

火 一 月 三 十 一 日 辛 丑

出 勤

地方官ニ命シ戊辰己巳ノ役戰死者ノ墳墓
ヲ修繕シ荒廢スル勿ラシム
明治 七

徳大寺長官ノ不審アリ
弔ス

水 二 月 一 日 壬寅

民有森林ノ内國土保安ニ關係アル箇所ハ
伐木停止セシムル丁アルヘキヲ達ス明治十五

出勤 午前 午後
伊藤大臣 出勤
外務大臣 出勤
退下 午後
見事 午後

木 二 月 二 日 癸卯

文部省女子師範學校ヲ東京ニ創建ス皇后
金ヲ賜ヒテ其資ヲ助ク明治十八

出勤 午前 午後
長岡素子内一様
見事 午後

金 二 月 三 日 甲辰

丁抹公使支那日本ノ海底ニ電信線ヲ設ケ
ント請フ之ヲ許ス明治十四

出勤 午前 午後
天津條約ハ李鴻章ノ新ニ
自負セリ故ニ
上杉老公ハ
夜未 徳義士ノ
神氣 午後
風氣 午後

土 二 月 四 日 乙巳

大石良雄等ニ死ヲ賜フ元祿十六

朝リ 雪降 心地
出勤 徳大寺 出勤
吊首 黒田 便
午後 午後
文部 二十年
余五十一歳 遺失可憐
夜二時 休息
家書 午後

日 二 月 五 日 丙午

車駕京都大阪間ノ鐵道ニ臨ミ開業式ヲ行
フ明治

皇儲好天氣
十日此月是也
黒田大臣ヲ訪ハシ御氣
郵傳昨夕電
午後金杉海軍
四時紅葉上
此方子ノ位
ノ出流

月 二 月 六 日 丁未

國書封囊ノ絨章ヲ定ム明治

出勤
昨夜上
皇儲上
大八書
三股隊元事
小牧
午後七時
夜

火 二 月 七 日 戊申

復讐嚴禁ヲ令ス明治

出勤
天
官
任
新
下
令

水 二 月 八 日 己酉

開拓使ヲ廢シ函館札幌根室ノ三縣ヲ置ク明治

出勤
井上
任
山
夜

木 二 月 九 日 庚戌

參議兼内務卿大久保利通ニ命シ佐賀ノ賊ヲ鎮撫セシム明治七年

好書祝不系
出勤相良樂寂位益
牛子第一國名法禁ノ
使とる
退下大隈外務大臣ノ
信候 〇木村娘竹素
揚山島山ノ可傷
柔上符信白草ノ必下
建徳兵部右大臣京田

金 二 月 十 日 辛亥

米國鯨漁船安房ニ來リ漂民ヲ送ル安政二

昨出勤。
千坂部中東
止上金工堅有大月五由ノ
活アリ 〇平藤伯良島ノ
止上對位子 〇三内投
ト書ウ 〇元中の 〇三内投
湯野川忠國二年捲入
東所の 〇岩井毛日伴
〇若吉米沢の 〇
〇徳次の 〇

土 二 月 十 日 壬子

紀元節祝儀ノ儀ヲ行フ後升恒例トナス明治七年

風寒午前所管針油
紀元節大礼不系
吉井の 〇熱海報來
亂感六書類ノ表藏收
李四中速初ノ 〇端
燒香忠老ノ 〇傳來
芥沢の 〇信ノ 〇森山吉下の 〇信ノ 〇長政
社土時日屯

日 二 月 十 日 癸丑

東京金銀座ヲ廢ス明治二

暑右風
陰曆元旦清石使ノ噴表の 〇
香中一の 〇
本所の 〇
本所の 〇
おやおの 〇

月 二 十 三 日 甲 寅

平民ニ命シテ氏ヲ稱シ其詳ナラサルモノ
ハ新ニ之ヲ設ケシム明治八

出動先出是必果
板垣重信等ノシヨル肉兵
幕子役才不決林事等
可成事其ノ夜古回等
高法事等知子共會七
風氣不流行ノ時極多
山者所所也人等
其原之也

火 二 十 四 日 乙 卯

美濃國大水死スル者二萬餘人民戸流亡ス
ル者數萬家天文四

風井不來林本物
陣の邊可看其人多
可成事其ノ夜古回等
○在名其也
官表改其内大流
其代初可身好
三十九百五ノ
内中下ノ
此也

水 二 十 五 日 丙 辰

土地賣買ノ禁ヲ解ク明治五

○土地賣買ノ禁ヲ解ク
其内事等
其方田事
其内事等
下條正雄 三男死去
孫監治等ノ孫陳書
高田車行事等
夜半日俄兩軍
其内事等

木 二 十 六 日 丁 巳

僧西行京師ニ卒ス年七十三建久

其内事等
其方田事
其内事等
下條正雄 三男死去
孫監治等ノ孫陳書
高田車行事等
夜半日俄兩軍
其内事等

臨時建築局ヲ置キ諸官衙及議院建築ノ事
ヲ掌ラシム 明治十九

金 二 月 十 七 日 戊 午

下年此頃ノ雷雨
古物ノ取立
有今ノ際ニ地
子好又ノ事結務
御上ノ旨印ノ取
取立上ノ旨印ノ取
取立上ノ旨印ノ取
取立上ノ旨印ノ取

琉球藩ノ三司官池城安規等東京ニ來ル 明治十八

土 二 月 十 八 日 己 未

出都 徳大寺 久田
井上毅 大隈 大臣 返信
古月 山崎 大八 来
陸上 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
中洲 山崎 大八 来
長井 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来
若月 山崎 大八 来

大鹽平八郎亂ヲ大阪ニナス 天保八年

日 二 月 十 九 日 庚 申

御。在宅
娘。二人。安所。行ノ
一月。廿。八。日。北。来。世。下
共。南。立。七。十。五。田。耕
防。海。拾。河。岸。通。元。回。路
有。十。三。日。早。朝。カ。レ

萩生金谷先人徂徠ノ遺書度量衡考ヲ幕府
ニ獻ス 享保十四

月 二 月 二十 日 辛 酉

御。在宅
娘。二人。安所。行ノ
一月。廿。八。日。北。来。世。下
共。南。立。七。十。五。田。耕
防。海。拾。河。岸。通。元。回。路
有。十。三。日。早。朝。カ。レ

火 二 月 廿 一 日 壬戌
 源家康ニ東照大権現ノ號ヲ贈ラル 元和
 三
 形三ノ知和也
 出勤 和月里向ノ強
 首曆一月十日
 午後立寄信由國陣迄根
 傳顧西ノ西表ヲ歸之 所々
 横左中下ノ 割島不事
 新公信隨負十餘人

水 二 月 廿 二 日 癸亥
 衆庶ニ民事訴訟審判ノ傍聽ヲ許ス 明治
 八
 出勤 家内事不
 田中繁美ノ 鯨ノ事
 此節各地方知事上ノ事務者
 福原紫原ノ故
 大分書院買ノ事
 及大田来 後送四十
 以上如口家内ノ事

木 二 月 廿 三 日 甲子
 天皇地方官會議院へ臨御 明治
 十三
 出勤
 大八ノ虫物ノ差元ノ送
 下傳 和月里向ノ強
 母カカノ所
 高カカノ所ノ地
 依傳表裏ノ調

金 二 月 廿 四 日 乙丑
 編曆ノ事ヲ内務省ニ屬ス 明治
 九
 出勤 前 三股隊
 校ノ初ノ在
 折馬家ノ 磯地生
 本江折知
 田中繁美
 退下
 田中繁美
 田中繁美

土 二 月 廿 五 日 丙 寅

私ニ燈臺ヲ沿海ニ建ルヲ禁ス
明治 四

出部

高崎區燈臺建造ノ件
出部
公松氏知事國山氏長官
神北澤上杉松平
信守

日 二 月 廿 六 日 丁 卯

綾靖天皇ノ陵ヲ大和高市郡四條村ニ發見
明治 十 一

朝日堂
破道長寺
勝安寺
高崎五六
總在屯
上白紙
ト其節

月 二 月 廿 七 日 戊 辰

外務卿副島種臣ヲ特命全權大使トナシ清
國ニ差遣ス
明治 六

出部
大島氏
車馬
物

高崎區燈臺建造ノ件

火 二 月 廿 八 日 己 巳

兵部省ヲ廢シ陸軍海軍二省ヲ置ク
明治 五

出部
高崎區燈臺建造ノ件
高崎五六
總在屯
上白紙
ト其節

二月會計					
日次	受方摘要	円	拂方摘要	円	
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					
十三					
十四					
十五					
十六					
十七					
十八					
十九					
二十					
廿一					
廿二					
廿三					
廿四					
廿五					
廿六					
廿七					
廿八					
廿九					
總計					
殘高					
比較合計					

水 二 月 廿 九 日 庚 午

加茂上下社へ行幸 明治 二

出勤如所
 絶不々々々々々々々々々々
 御前
 大臣
 田金
 易
 新

土 三 月 三 日 癸酉

悉ク天草ノ賊ヲ誅ス 十寛永

此の夜上子... 城沼初... 如... 二十分

木 三 月 一 日 辛未

江戸城ヲ改築ス 十慶長

朝... 出... 有馬... 多... 天... 天...

日 三 月 四 日 甲戌

海軍省ニ令シテ朝鮮國海岸ヲ測量セシム 十明治

朝... 大... 大...

金 三 月 二 日 壬申

武官朝拜及ヒ諸禮式ニ軍服ヲ用シム 十四明治

武... 出... 王... 七... 天... 天...

月 三 五 日 乙亥

太政官中會計檢査院ヲ置ク 明治十三年

昨雨又粘り
出勤

退下中係橋井八郎
海軍少佐原松平
華電行買物宅
以夜成之

火 三 月 六 日 丙子

備前讃岐間ノ海底電信線成ル 明治十三年

出勤
於此起去并起海一吉
非職少人の宿信了

橋井八郎
海軍少佐原松平
夜山考宅
祝す木悦河海

水 三 月 七 日 丁丑

神武天皇即位日ヲ紀元節ト稱ス 明治十三年

此風氣は西多
福原春樹の件
出勤
金井之素四重陸軍任

夜山考宅
祝す木悦河海

木 三 月 八 日 戊寅

始テ度量ヲ天下ニ頒ツ 大寶二年

出勤
武部有
根本亦不達
根本亦不達
根本亦不達

夜山考宅
祝す木悦河海

金 三 月 九 日 己 卯

高山正之ニ正四位ヲ贈リ神號ヲ高山神社ト賜フ
明治十一年

出帆お梅園
○る高し
重出部
牛車日
下物
内
大田
夜

土 三 月 十 日 庚 辰

郵便賃錢ノ稱呼ヲ廢シ郵便稅ヲ興ス
明治十六年

出帆
郵便賃錢
稱呼ヲ廢シ
郵便稅ヲ興ス
明治十六年

日 三 月 十 一 日 辛 巳

天皇伊勢太廟ニ謁ス
明治二年

伊勢
天皇
伊勢太廟
謁ス
明治二年

月 三 月 十 二 日 壬 午

一六日ノ休暇ヲ日曜日ニ更ム
明治九年

一六日ノ休暇ヲ日曜日ニ更ム
明治九年

火 三 月 十 日 癸 未

皇后宮女子師範學校へ行啓 明治十二年

不承知 御下 御下

年々 若くは 出来 育 育
相 甲 寅 卯 辰 巳
野 野 野 野 野 野
野 野 野 野 野 野

水 三 月 十 四 日 甲 申

外國人トノ婚嫁ヲ許ス 明治十六年 海防費へ宮禁
ノ儲餘ニ拾万圓支出ノ勅諭アリ 明治二十年

御下 御下

改 年 野 野 野 野
年 長 田 野 野 野 野

野 野 野 野 野 野
野 野 野 野 野 野
野 野 野 野 野 野

木 三 月 十 五 日 乙 酉

洋文ヲ洋紙ニ書スルノ外公文ニ洋製イ
ンキヲ用ルヲ禁ス 明治九年

不承知 御下 御下

年々 若くは 出来 育 育
相 甲 寅 卯 辰 巳
野 野 野 野 野 野
野 野 野 野 野 野

金 三 月 十 六 日 丙 戌

桓武天皇千年忌ヲ延曆寺ニ修ム 文化二年

出 勤

野 野 野 野 野 野
野 野 野 野 野 野
野 野 野 野 野 野

野 野 野 野 野 野
野 野 野 野 野 野
野 野 野 野 野 野

土 三 月 十 七 日 丁 亥

宮中ニ制度取調局ヲ置ク
明治十七

日 三 月 十 八 日 戊 子

外國人ノ我學校ニ入學スルヲ許ス
明治十七

吉井有也氏ハ法ヲ以テ不能
行ハシテ小宮村花屋

月 三 月 十 九 日 己 丑

所得税法公布セラル
明治二十

不系

止立記
考方
山縣
山縣
山縣

火 三 月 二 十 日 庚 寅

婦女ノ罪犯ニ棒鎖ヲ用フルヲ禁ス
明治十八

士方大臣

女
考方
考方
考方

北七折

水 三 月 廿 一 日 辛 卯

德川御親征ノ爲メ車駕京師ヲ發ス
明治 元

不系

申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り

木 三 月 廿 二 日 壬 辰

燐製殺鼠藥ノ販賣ヲ禁ス
明治 十

不系

申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り

金 三 月 廿 三 日 癸 巳

大政維新ノ旨ヲ朝鮮ニ報ス
明治 元

申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り

三股隊差倉味再系

下條元系
下條元系
下條元系

申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り

土 三 月 廿 四 日 甲 午

源義經大ニ平氏ヲ壇浦ニ敗ル
元 曆 二

申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り
申上り申下り

日 三 月 廿 五 日 乙未

電信中央局ヲ東京ニ置ク
明治十一年

長崎

子紙并鯨肉贈

月 三 月 廿 六 日 丙申

車駕大阪天保山ニ幸シテ海軍操練ヲ覽ル
明治元年

五辻東山局中ノ事
以彼西至行ノ事

火 三 月 廿 七 日 丁酉

始テ新聞紙ヲ各府縣ニ頒布ス
明治五年

朝吉丹者ヲ以テ祝フ

午後長政来問
吉丹公問来問

林来リ切替セシメ明日ヨリ
去ル晩食ヲ倍ス目ヲ洗フ

水 三 月 廿 八 日 戊戌

大禮服并軍人等制規アル服着用ノ外廢刀
ヲ布告ス
明治九年

南島各人其節ヲ守ル

今ハ林ヲ修メ来ラズ
岩虎既来ニ乘腫物ヲ
眼床切替ス

木 三 月 廿 九 日 己 亥

諸標榜等ニ禁裡ノ字ヲ冒シ及菊章ヲ濫用スルヲ禁ス 明治元

於林大田東切
長舟才多木
深井才多木
多八味忍厚

金 三 月 十 日 庚 子

郵船ヲ清國上海及ヒ其近傍ノ地ニ通スルヲ布告ス 明治八

於大田東洗
留三七四
午二時三十七分
長政能東
おやう
夜十竹林
根部

土 三 月 十 一 日 辛 丑

是月本願寺ノ僧一寺ヲ江戸ノ築地ニ建ツ 延寶八

於林大田東切
長舟才多木
深井才多木
多八味忍厚

文三

日 四 月 一 日 寅 壬

滿廿年ヲ丁年卜定ム
九 明治

朝大田東治源伯
朝大田東治源伯
吉川有書行之香
切志子始行不
勝中見舞い舞
北沢晩来不見
大田入京六時
徳林東人

日 二 月 四 日 卯 癸

幕府米利堅ニ購買スル所ノ甲鐵艦橫濱港
二至ル
元 明治

朝大田東治一方少
長政東見贈
五日目の夜
岩他診断書
上野山櫻花盛開
夜九時林東家
倉面不
徳林東人

三 月 會 計

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
卅一				
總計				
殘高				
比較合計				

始テ丹後美作大隅ノ三國ヲ置ク 和銅 六

朝聖十六元宮堂量計始
六日大田身奉
神武系日

曹孫三石乃子親
忠吉身辰
林夜身奉

火 四 月 三 日 甲 辰

琉球藩ヲ廢シ沖繩縣ヲ置ク 明治 十二

始テ大田身奉七日

午刺吉身奉

午坊長教地氏細身
午坊立身奉

女山身奉

始長身奉
始林身奉

水 四 月 四 日 乙 巳

始テ太政官日誌ヲ刊布ス 明治 元

始テ大田身奉八日

始身奉

木村身奉

始身奉
始身奉

始身奉
始身奉

午坊長身奉
午坊身奉

水 四 月 五 日 丙 午

佐久間象山吉田松陰ヲ獄ニ下ス 安政 元

始大田身奉九日

始身奉

始身奉

始身奉

始身奉

始身奉

始身奉

金 四 月 六 日 丁 未

三股身奉 明治 五十三

戌庚 日 九 月 四 月

名主年寄等ヲ廢シ戸長ヲ置ク
明治五

亥辛 日 十 月 四 火

外人ノ北海道近海ニ來リテ漁獵スルヲ禁
ス(三里以内)明治九

申戊 日 七 月 四 土

農商務省ヲ置ク
明治十 十日

如所記本回再修
庭前早稲田園
川原迄本回再修
其後分館即ニ
お尋ね申す
此の事林に
お尋ね申す

酉己 日 八 月 四 日

太田道灌江戸城ヲ築ク
長祿元

金 四 月 十 三 日 甲 寅

大納言藤原氏宗等貞觀格ヲ上ル
貞觀 十一

土 四 月 十 四 日 乙 卯

元老院大審院ヲ置ク
明治 八

古事記
政可祝
軍
能方田
安撫
夜林
宿
觀

水 四 月 十 一 日 壬 子

京都大津間鐵路造築ノ議ヲ許ス
明治 十一

加藤
白根

木 四 月 十 二 日 癸 丑

勝區ノ樹木ヲ剪伐スルヲ禁ス
明治 五

勝區
印

日 四 月 十 五 日 丙 辰

明治十七
布哇國特命全權公使國書ヲ捧シテ參内ス

晴 五月廿五日
我 爲 此 事 向 爲 也
此 事 事 所 任 事
成 後 紀 事 與 假 事
於 大 田
井 上 陳 以 來

月 四 月 十 六 日 丁 巳

明治十六
天皇鎌倉宮ニ謁ス

於 大 田 巡 視
成 後 紀 事 與 假 事
此 事 事 所 任 事
成 後 紀 事 與 假 事
降 以 於 念 一 日
林 兼 東 以 於 念 一 日
此 事 事 所 任 事
成 後 紀 事 與 假 事

火 四 月 十 七 日 戊 午

明治元
宮堂上ノ子弟ヲ度シテ僧ト爲スヲ禁ス

於 國 奧 以 於 念 一 日
此 事 事 所 任 事
成 後 紀 事 與 假 事
降 以 於 念 一 日
林 兼 東 以 於 念 一 日
此 事 事 所 任 事
成 後 紀 事 與 假 事

水 四 月 十 八 日 己 未

明治十八
尊賣特許條例ヲ制定シ十八年七月一日ヨリ施行ス

於 國 奧 以 於 念 一 日
此 事 事 所 任 事
成 後 紀 事 與 假 事
降 以 於 念 一 日
林 兼 東 以 於 念 一 日
此 事 事 所 任 事
成 後 紀 事 與 假 事

木 四 月 十 九 日 庚 申

前權大納言藤原爲世續千載和歌集ヲ上ル
元應

以藤原爲世續千載和歌集
上ル

金 四 月 二 十 日 辛 酉

鴉片烟ノ禁ヲ嚴ニス
明治元

士
常念一掃在鴉片
天賦事少人層法事

土 四 月 廿 一 日 壬 戌

勅シテ贈正三位左近衛中將楠正成ノ嗣字
ヲ湊川ニ營シ其子正行以下ヲ配祀ス
明治元

經太田氏
園丁三人
松

東井東山
松

日 四 月 廿 二 日 癸 亥

弘曆者ヲ除クノ外私ニ曆本ヲ販賣スルヲ
禁ス
明治三

時方田
久野
西
園
元
本
山
林
大
八
百
田

月 四 廿 三 日 甲 子

始テ鎮臺ヲ東山西海二道ニ置ク
明治 四

雨降ル古田あり大野の
田より五日分り
三月十三日降るは
藤花牡丹雨前ハ惜
海老花の老鷹心者
紅日雨降

林ノ入りノ花ノ花

火 四 廿 四 日 乙 丑

府藩縣ニ令シテ普ク種痘ヲ行ハシム
明治 三

古田ノ女
山吉
由吉
寺方大座
坊
梅
延

水 四 廿 五 日 丙 寅

僧侶食肉娶妻蓄髮ヲ許ス
明治 五

大田
石
十

木 四 廿 六 日 丁 卯

伊太利國特命全權公使朝見シ國書ヲ上リ
皇子「ウンベルト」位ヲ嗣クヲ報ス
明治 十一

大田
石
十

金 四 月 廿 七 日 戊 辰

大勲位菊花大綬章菊花章ヲ露國皇帝ニ贈ル
明治十

五月廿七日
御事

土 四 月 廿 八 日 己 巳

華族世襲財産法ヲ公布セラル
明治十九

五月廿八日
御事

日 四 月 廿 九 日 庚 午

京都府ヲ置ク
明治元

五月廿九日
御事

月 四 月 三 十 日 辛 未

神佛諸宗ヲ混同シテ教院ヲ立ルヲ停ム
明治八

五月三十日
御事

火 五 月 一 日 壬 申

北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ
得明治

於大田本所
天島
元田
熱
林
林

水 五 月 二 日 癸 酉

詔シテ府縣ノ長官ヲ召集シ衆庶ニ代リテ
律法ヲ議セシム明治

兩大臣
元田
井
熱
田

計 會 月 四

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
總計				
殘高				
比較合計				

木 五 月 三 日 甲 戌
學石等ノ毒藥ヲ賣買スルヲ禁ス
明治 五

金 五 月 四 日 乙 亥
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク
明治 八

土 五 月 五 日 丙 子

皇城火アリ
明治 六

皇城火アリ
明治 六
皇城火アリ
明治 六

皇城火アリ
明治 六
皇城火アリ
明治 六

皇城火アリ
明治 六
皇城火アリ
明治 六

日 五 月 六 日 丁 丑

大總督府徳川家達ニ令シ江戸市街ノ舊幕
府掲榜ヲ撤セシム
明治 元

大總督府徳川家達ニ令シ江戸市街ノ舊幕
府掲榜ヲ撤セシム
明治 元

大總督府徳川家達ニ令シ江戸市街ノ舊幕
府掲榜ヲ撤セシム
明治 元

大總督府徳川家達ニ令シ江戸市街ノ舊幕
府掲榜ヲ撤セシム
明治 元

金 五 月 十 一 日 壬 午

大阪神戸間ノ鐵道成ル明治七

夜中より雨多し不眠
林本より三ノ咽迄
出勤 一ヶ鐘子電
のり多し
北出勤 甲子年
多し
大田一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘

土 五 月 十 二 日 癸 未

海陸軍中少尉ヲ奏任ト定ム明治六

南風吹く
北田田
下條北沢
岩井ヲ廻ル
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘

日 五 月 十 三 日 甲 申

參議副島種臣ヲ魯國ポシエニ差遣シ樺太島疆界ノ事ヲ協議ス明治四

北出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘

月 五 月 十 四 日 乙 酉

瑞西合衆國ト本條約成ル慶應元 取引所條例公布セラル明治二十

出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘
出勤 一ヶ鐘

東叡山ノ賊ヲ討ス
明治元

火 五 月 十 日 丙 戌

晩身大回轉
終我引付

列藩ノ私ニ關ヲ置ヲ禁ス
明治元

水 五 月 十 六 日 丁 亥

公不集

長政来ル
長政又引付
大回轉共ニ居

下總國習志野原ヲ練兵所ト定ム
設鐵道條例ヲ公布セラル
明治二十六年

木 五 月 十 七 日 戊 子

能出勤
支那内務省
林於
岩作
家内
岩井
の事
月

五稜郭ノ賊降リ函館平定
明治二十二年

金 五 月 十 八 日 己 丑

出勤

極丹
右此
能死
平後
林本
可玩
延後

土 五 月 十 九 日 庚 寅

内閣顧問木戸孝允疾アリ車駕臨ミテ之ヲ問フ明治十

陸出勤 陸軍省
の統制上 皇太子の板倉御殿に及
午後 皇太子御所へ行くと陸軍省
の 後 不在 皇太子御所 皇太子御所
十六日 皇太子御所 皇太子御所
十七日 皇太子御所 皇太子御所
十八日 皇太子御所 皇太子御所
十九日 皇太子御所 皇太子御所
二十日 皇太子御所 皇太子御所
二十一日 皇太子御所 皇太子御所
二十二日 皇太子御所 皇太子御所
二十三日 皇太子御所 皇太子御所
二十四日 皇太子御所 皇太子御所
二十五日 皇太子御所 皇太子御所
二十六日 皇太子御所 皇太子御所
二十七日 皇太子御所 皇太子御所
二十八日 皇太子御所 皇太子御所
二十九日 皇太子御所 皇太子御所
三十日 皇太子御所 皇太子御所

日 五 月 二 十 日 辛 卯

華士族ノ合家ヲ禁ス明治九

七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

月 五 月 廿 一 日 壬 辰

楠正成六波羅兵ト四天王寺ニ戦ヒ大ニ之ヲ破ル元弘二

出勤

楠正成六波羅兵ト四天王寺ニ戦ヒ大ニ之ヲ破ル元弘二
出勤
楠正成六波羅兵ト四天王寺ニ戦ヒ大ニ之ヲ破ル元弘二
出勤

火 五 月 廿 二 日 癸 巳

臺灣諸蕃降ル明治七

臺灣諸蕃降ル明治七
下
午
神田

水 五 月 廿 三 日 甲 午

私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ贊成スルモノ
ニ授與スル爲メ黃綬褒章ヲ制定セラル
明治 二十

雨多
流石と云ふ
一田幸也
午後三時許井田車中修業園
行く谷毛出帯等々法住
夜雨不晴

木 五 月 廿 四 日 乙 未

楠社ヲ湊川神社ト改稱ス
明治 五

以上ノ出部
長官ノ内御あり細一昨
心持任任るまは御用
下等
昨上ノ御給自十五時後
と西村方加

金 五 月 廿 五 日 丙 申

米船二艘浦賀ニ來リ交易ヲ請フ許サス
弘化 三
閏月

好む 五江一
上野新橋御裁可なり
仍舊長島新書館の御方
北隣地花松原破換
桂木倉二人来り芝山付方
喰食共同

土 五 月 廿 六 日 丁 酉

兌換銀行券條例制定十七年七月一日ヨリ
施行ス
明治 十七

好む 桂木倉御裁可なり
午後三時許井田車中修業園
行く谷毛出帯等々法住
夜雨不晴
三十一日大御方御
好む 桂木倉御裁可なり
午後三時許井田車中修業園
行く谷毛出帯等々法住
夜雨不晴

日 五 月 廿 七 日 戊 戌

一般ニ貿易銀通用ヲ許可ス
明治十一年

日 復 閣 議 決 案 七 十 九

有 限 公 司 之 事 關 於 國 家 公 債

初 次 發 行 之 事 關 於 國 家 公 債

月 五 月 廿 八 日 己 亥

夜半水戸浪士英公使ノ旅館高輪東禪寺ニ
亂入ス
元久

雨 出 勤
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載
御 座 迄 及 以 酒 杯 載

火 五 月 廿 九 日 庚 子

東京ニ於テ小學師範學校設置
明治十五年

勅 諭

近 來 小 學 師 範 學 校 設 置
得 以 進 行 北 方 振 興 成
績 著 功 甚 矣 宜 予 嘉 獎
以 資 勸 勉 其 該 校 教 師
推 原 正 隆 等 各 員 予 以
嘉 獎 云 云

水 五 月 三 十 日 辛 丑

皇子女御降誕ノ時ハ自今宣下ニ不及親王
內親王ト稱ス
明治十九年

勅 諭

午 後 下 木 四 所 引 出 行
伊 太 大 隈 等 為 勳 功 著 功
皇 子 女 御 降 誕 時 及 我 也 於
大 隈 等 各 員 予 以 嘉 獎 云 云

婦女ニテ一家相續者ハ自印ヲ用ヒシム
明治六

目録
 新玉買可思田大臣印
 古井の印
 出動
 十七日 大八書坊印
 流傳業之徒印
 午後吉岡角力印
 夜入海

種子各
 山石
 中
 中

金ノ世
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 廿一
 廿二
 廿三
 廿四
 廿五
 廿六
 廿七
 廿八
 廿九
 三十
 卅一

計 會 月 五

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
卅一				
總計				
殘高				
比較合計				

金 六 月 一 日 癸卯

非常號砲臺ヲ赤阪假皇居内ニ移ス 明治十七

皇早朝金輝ノ赤白長
出動セヨ内省ノ帝衣天國
乃リ甲子ノ柳原赤白七
長夜未止水ノ出あり
長夜未止水ノ出あり
長夜未止水ノ出あり
長夜未止水ノ出あり
長夜未止水ノ出あり

土 六 月 二 日 甲辰

戊辰ノ戦功ヲ賞ス 明治二

戊辰ノ戦功ヲ賞ス
戊辰ノ戦功ヲ賞ス
戊辰ノ戦功ヲ賞ス
戊辰ノ戦功ヲ賞ス
戊辰ノ戦功ヲ賞ス

日 六 月 三 日 乙巳

四民ノ皇城門内ニ傘笠ヲ用フルヲ許ス 明治五

四民ノ皇城門内ニ傘笠ヲ用フルヲ許ス
四民ノ皇城門内ニ傘笠ヲ用フルヲ許ス
四民ノ皇城門内ニ傘笠ヲ用フルヲ許ス
四民ノ皇城門内ニ傘笠ヲ用フルヲ許ス
四民ノ皇城門内ニ傘笠ヲ用フルヲ許ス

月 六 月 四 日 丙午

後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス 元弘三

後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス
後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス
後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス
後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス
後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス

火 六 月 五 日 丁未

春分秋分ノ二季ニ皇靈祭ヲ定ム
明治十一年

快晴青山登る所不傷
指物屋来
尾州分館 徳大寺
上杉天公 河原中
長崎 小倉 博多 一
為 初九日
五期定ノ上ナリ

水 六 月 六 日 戊申

政府發行ノ紙幣ハ明治十九年一月ヨリ漸
次銀貨ニ交換ス
明治十八年

指物屋来
山崎 小倉 博多
長崎 小倉 博多
尾州分館 徳大寺
上杉天公 河原中
長崎 小倉 博多 一
為 初九日
五期定ノ上ナリ

木 六 月 七 日 己酉

商標條例ヲ制定ス
明治十七

出勤
指物屋来
三條分館
尾州分館
徳大寺
上杉天公 河原中
長崎 小倉 博多 一
為 初九日
五期定ノ上ナリ

金 六 月 八 日 庚戌

田畑石高ノ稱ヲ廢シ之ニ代ルニ反別ヲ以
テセシム
明治十六

出勤
指物屋来
尾州分館 徳大寺
上杉天公 河原中
長崎 小倉 博多 一
為 初九日
五期定ノ上ナリ

東京招魂社ヲ靖國神社ト改稱別格官幣社
三列ス 明治二十

土 六 月 九 日 辛 亥

出勤 九時

書局へ来り 書帳整理する
○事務など いろいろ
五時退社 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に

絶家期限(滿六ヶ)ヲ制定ス 明治十七

日 六 月 十 日 壬 子

出勤 九時
事務など いろいろ
五時退社 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に

日章ヲ以テ本邦總船ノ記號トナス 安政元

月 六 月 十 日 癸 丑

出勤 〇時
全船の船員に
〇時退社
夕方に 夕方に 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に

英國ト本條約成ル 安政六

火 六 月 十 二 日 甲 寅

出勤 〇時
全船の船員に
〇時退社
夕方に 夕方に 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に
夕方に 夕方に 夕方に

水 六 月 十 三 日 乙 卯

明智光秀土兵ノ爲ニ鐵殺セラル天正十

皇出動 大統
中山位死云
所居者諸 主花
七指
此山ノ土方揚井
此山ノ土方揚井
此山ノ土方揚井

木 六 月 十 四 日 丙 辰

鳥取藩士大阪ニテ英船ヲ砲撃ス三文久

不承修 梅雨
寺指包二人
此山ノ土方揚井
此山ノ土方揚井
此山ノ土方揚井

金 六 月 十 五 日 丁 巳

弘文天皇ノ陵ヲ近江國滋賀郡大津ニ發見天明十

皇御山出動
上皇御山出動
上皇御山出動
上皇御山出動
上皇御山出動

土 六 月 十 六 日 戊 午

山梨三重兩縣并京都府御巡幸此日發輦天明三

山梨三重兩縣并京都府御巡幸此日發輦
山梨三重兩縣并京都府御巡幸此日發輦
山梨三重兩縣并京都府御巡幸此日發輦

日 六 月 十 七 日 己未

來ル七月一日ヨリ國內一般郵便ヲ開クヲ
令ス明治
五

異抄抄本
井上清政書
根中北河入
法傳入正
午抄初之
官報あり

月 六 月 十 八 日 庚申

幕府内田正雄等ヲ蘭國ニ留學セシム文久
二

出勤
木抄
初定

火 六 月 十 九 日 辛酉

萬國郵便聯合條約ヲ頒ツ明治
十

可
出勤
年根
阿美
諸

水 六 月 二十 日 壬戌

宮内省中皇后宮大夫皇后宮亮ヲ置ク明治
一

出
七人
雨
上
者
才

木 六 月 廿 一 日 癸亥

白耳義下假條約成ル 慶應

出勤

水樹... 國海... 持... 永山... 海山... 借...

金 六 月 廿 二 日 甲子

官報ニ登載シタル者ハ各新聞紙ニ抄録ス
ルコトヲ得明治十六

出勤

午... 此...

土 六 月 廿 三 日 乙丑

郵便徽章ヲ改定ス 明治十七

出勤

長... 大... 根... 大...

日 六 月 廿 四 日 丙寅

阿媽港黒船二艘長崎ニ來リ交易ヲ請フ再
渡ヲ嚴禁シテ放チ遣ル 正保十四

如... 牛... 物... 完... 箱... 夜... 昨... 夜...

壬午

月 六 廿 五 日 卯 丁

上野高崎間鐵道開業式ヲ執行ス車駕此ニ臨ム明治十七

出勤。後藤君の他、光君、若原君、佐々木君、森君、才物君、根岸君、地代君、沖繩君、米田君、後田君、北島君、夜間君、味田君、馬田君、也、

火 月 六 廿 六 日 辰 戊

支那八竹溪紙幣ヲ贋造スルヲ以テ獄ニ下シ尋テ之ヲ斬ス明治三

雨 出勤 園 岸、植、樹、相、原

水 月 六 廿 七 日 巳 己

日本銀行條例ヲ制定ス明治十五

出勤

木 月 六 廿 八 日 庚 午

新聞條例讒謗律ヲ定ム明治八

出勤 大、和、服、自、身、現、後、式、古、様、多、数、有、り、何、處、に、出、て、來、り、時、常、に、若、原、君、の、所、に、來、り、馬、田、君、の、所、に、來、り、也、

金 招魂社ヲ東京ニ營ス 明治

六月廿九日 辛未

招魂社ノ東京ニ營ス 明治
不承書ハ拜ルルナリ
目下ノ事ハ
岡山ノ路ニ至ル
年及リテ字ニ苦シ
従テ志月ノ事ハ
何れノ事ナラシ
車ノ白紙ニ書キ
此ノ紙ヲ
ハルル

九十八
新田義貞足利尊氏ト京師ニ戦ヒ利アラズ
名和長年之ニ死ス 延元

土 六月十三日 壬申

新田義貞足利尊氏ト京師ニ戦ヒ利アラズ
名和長年之ニ死ス 延元
子ヨシタカ
此ノ紙ヲ
ハルル
出テ
此ノ紙ヲ
ハルル
此ノ紙ヲ
ハルル

會計月六

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
総計				
残高				
比較合計				

火 七 月 三 日 乙亥

郵便ヲ東京横濱ノ間ニ設ク
明治 四

出部

水 七 月 四 日 丙子

米國前大統領「グラント」氏參朝ス
明治 十二

雨能林ノ木ノ伐採
出部
多岐山下

木能川ノ水ノ流
後村

日 七 月 一 日 癸酉

官報ヲ發行ス
明治 十六

晴

此日自地内増成即心
お金りしりやめたり
村社由八十八の家の増成
は
は
は

月 七 月 二 日 甲戌

荷蘭駱駝二頭ヲ貢ス
文政 四

晴
出部
書箱
七
七
七

七
七
七

木 七 月 五 日 丁 丑

元老院ヲ開ク天皇親臨シテ其儀ヲ行フ
明治十八

出物
人己身ハ何故成ル正之也
和利古井ハ何大隈也
非ハ何系トシテ

金 七 月 六 日 戊 寅

舊金銀貨價格表ヲ改正ス
明治十八

此の如
正の如
伊山並出
不集
青丹
山花
後
夜
世
去

土 七 月 七 日 己 卯

始テ授爵式ヲ行ヒ華族ニ爵ヲ賜フ
明治十八

大八北東六日三
後
能林事

岩他ハ一
能林事
夜
忌

日 七 月 八 日 庚 辰

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一
月ヨリ製造ヲ禁止ス
明治十八

能林事
能林事
農

能林事
能林事
能林事

月 七 月 九 日 辛巳

濱殿石室ヲ延遼館ト稱セラル明治ニ

林大八ノ所ノ石室ノ
林本所ノ石室ノ
山ノ石室ノ

母

火 七 月 十 日 壬午

華士族分家ノ者ハ自今平民籍へ編入ス明治七

林大八ノ所ノ石室ノ
山ノ石室ノ

字當院ノ可成ノ所ノ
轉入ノ所ノ

水 七 月 十 一 日 癸未

幕府品川御殿山ニ各國旅館ヲ建テシム文久元

品川御殿山ニ各國旅館ヲ建テシム
品川御殿山ニ各國旅館ヲ建テシム
品川御殿山ニ各國旅館ヲ建テシム

木 七 月 十 二 日 甲申

車賀東巡陸中國三本木驛ニ抵ル新渡部傳拓地ノ功ヲ追賞シ金ヲ賜フ明治九

車賀東巡陸中國三本木驛ニ抵ル新渡部傳拓地ノ功ヲ追賞シ金ヲ賜フ

午食取一ヶ女新ノ様乃
尾張町ノ新ノ様乃
買

孫野ノ

金 七 月 十 三 日 乙酉

東京府下士民ノ神葬地ヲ定ム 明治五

体也
中多ク年ヲ材亦在リ
常務理事及 専ら
志居テ多用葡萄自園
山日新乳粉
車又將創ハ十八
下所九十年
夜抄多景

土 七 月 十 四 日 丙戌

詔シテ列藩ヲ廢シ悉ク縣トナス 明治四

他岐林多景
下傳テ其ノ事
去月後お
招テテ
山田他
百六

日 七 月 十 五 日 丁亥

工部大學校成ル車駕臨ミテ開校式ヲ行ヒ
勅シテ學業ヲ勸獎ス 明治十

州林
秋徳
少奈良
一
足利
夜抄多景

月 七 月 十 六 日 戊子

脇屋義助足利高經ヲ黒丸城ニ攻テ之ヲ破
ル 延元四

林多景
伊勢守
大馬
若
与大臣
考井
百七

火 七 月 十 七 日 己 丑

天皇將ニ江戸ニ幸シテ政ヲ視ントス詔シ
テ江戸ヲ以テ東京ト爲ス 明治 元

林有原ノ如クコム管ヲ利
先傳ノ抄本ニモ紀多ク見
まゝニ不健ニ七トハバ
三花ハ形極山ノ如ク
了ラザル

水 七 月 十 八 日 庚 寅

大學ヲ廢シ文部省ヲ置ク 明治 四

林有原
其時草紙書校事業式
目付
其内書部小牧ノ品川
沖ノ島ノ頃流レ付
不記ニ抄本ニ山田
口ノ抄本多ク
均ニ大流ノ合ニ由ル

木 七 月 十 九 日 辛 卯

農商私ニ姓氏ヲ稱シ雙刀ヲ帶ルヲ禁ス
元和

右林有原土甲ノ
出部山田元篤未
九分三十分後島
退下去割

金 七 月 二 十 日 壬 辰

前右大臣岩倉具視薨ス 明治 十六

出部 林有原
山田 跌坐ノ定ノ換極
其時草紙書校事業式
目付
其内書部小牧ノ品川
沖ノ島ノ頃流レ付
不記ニ抄本ニ山田
口ノ抄本多ク
均ニ大流ノ合ニ由ル

土 七 月 廿 一 日 癸巳

水戸權中納言綱條禮義類典ヲ幕府ニ獻ス
寶永 七

於村本
出勤
申

午後驟雨
大工
日蓋
夜長

日 七 月 廿 二 日 甲午

從前府縣稅及民費ノ名ヲ以テ徵收セル府
縣費區費ヲ改メ更ニ地方稅トシ其規則ヲ
定ム
明治 十一

雨
午後
於村本

山田
午後
夜長

月 七 月 廿 三 日 乙未

護良親王ヲ河東操練場ニ祭ル
紙製造取締規則ヲ公布セラレ
明治 二十

雨且
於村本
申

火 七 月 廿 四 日 丙申

金穀及物品員數ニ關係スル一二十ノ文字
ハ壹貳拾ノ字体ヲ用ヒシム
明治 七

於村本
申

水 七廿五日丁酉
逆徒由井正雪誅二伏ス 慶安 四

京都大阪間ノ鐵道成ル 明治 九
杉林 出勤 大工 杉林

金 七廿七日 己亥

外國教員ヲ大學南校ニ聘シ列藩ヲシテ生徒ヲ貢進セシム 明治 三

杉林 出勤 杉林 杉林

土 七廿八日 庚子

詔シテ全國地租ヲ改正シ地券ヲ設ク 明治 六

杉林 出勤 杉林 杉林

京都二條城ヲ離宮ト定ム
明治十七

日 七 月 廿 九 日 辛 丑

雨降
持本
睡眠
三十七
林曰
以得
午好
昔少
母の
之老

新潟在住外國人墓地約定成ル
明治三

月 七 月 三 日 壬 寅

能出
大田
是田
根本
此本
初持

諸皇族ノ祿米ヲ廢シ賄料ヲ賜フ
明治十六

火 七 月 三 十 一 日 癸 卯

風降
能出
持本
睡眠
三十七
林曰
以得
午好
昔少
母の
之老

水 八 月 一 日 甲辰

乘馬飼養令ヲ定ム 明治十七

柳原徳成入京大久保一
位二級イ健公
一公相薨去

木 八 月 二 日 乙巳

左大臣藤原時平等三代實錄ヲ上ル 延喜

藤原時平等三代實錄
上ル

計 會 月 七

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
卅一				
總計				
殘高				
比較合計				

金 八 月 三 日 丙 午

天皇后宮ノ下温泉ニ行幸ス
明治 大

龍引ノ大久保一帯

土 八 月 四 日 丁 未

詔シテ東京ニ幸シ蒼生ヲ綏撫スルヲ諭告
シ又奥羽ノ士民ニ諭シ大義ヲ辨シテ自新
セシム
明治 元

出都御泊地幕ヲ防海若
四往若
午後五時山ノ大久保一帯
龍引ノ大久保一帯

日 八 月 五 日 戊 申

洋船十數艘長州赤間關ニ來リ襲フ
明治 元

一川ノ三ノ帯ノ上ノ路
幸井ノ下ノ帯ノ上ノ路
雨時大北地傳
南風

月 八 月 六 日 己 酉

幕府砲臺ヲ品川海ニ築ク
嘉永 五

幕府砲臺ヲ品川海ニ築ク
嘉永 五

火 八 月 七 日 庚 戌

史志ノ擡頭平出關字等ノ書式ヲ廢ス
明治五

はらへん

水 八 月 八 日 辛 亥

民部權大丞井上馨ヲ佐渡江刺二縣ニ差遣
シ大ニ採鑛ノ業ヲ開カシム
明治三

光

政瑞、七日朝、名

長崎、七、七日朝、名、
五、四、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

木 八 月 九 日 壬 子

散髮脫刀ヲ許ス
明治四

かま

かま

金 八 月 十 日 癸 丑

尋常郵便ニ通貨封入ノ者ハ驛遞頭開封ス
明治六

かま

士 八 月 十 一 日 甲 寅

神佛教導職ヲ廢シ寺院住職ノ任免及教師
等級ノ進退ハ總テ各管長ニ委任ス明治十七

山崎村アリスリヤカ
山崎井古ノ智地尾井
長尾十五田村
不心々下
峯尾ノ

日 八 月 十 二 日 乙 卯

離宮ヲ芝濱ニ置ク後チ芝離宮ト稱ス明治八

能抽具
此の七
勝方
博方
晴方

月 八 月 十 三 日 丙 辰

是ヨリ先各港僑寓ノ支那人竊ニ我童男女
ヲ騙買セント謀ル是日地方官ニ令シテ嚴
ニ之ヲ賣與スルヲ禁ス明治三

〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇

火 八 月 十 四 日 丁 巳

期限ヲ定メ工作使役等ヲ以テ負債ヲ償フ
ノ外身軀ヲ典質シテ金銀ヲ借ルヲ禁ス明治八

長
長
長

水 八 月 十 五 日 戊 午

始テ國立銀行ヲ設ク
明治 五

霧雨 冷氣甚

木 八 月 十 六 日 己 未

本年一月ヨリ家祿賞祿收没ノ律例ヲ廢ス
明治 十

正熱 三十八
冷氣 七十五
月 終 於 此

金 八 月 十 七 日 庚 申

源賴朝以仁王ノ令旨ヲ奉シ兵ヲ伊豆ニ起
ス 治承 四

巨勢 三十八
頼朝 大父ノ書 北
伊豆 伊豆ノ物 又
杉本 杉本ノ子 杉本

土 八 月 十 八 日 辛 酉

戊辰己巳ノ際順逆ヲ誤リ戰死セシ者其親
族朋友ノ之ヲ祭祀スルヲ許ス 明治 七

新 野 上 野 車 十 時 刻
杉本 杉本ノ子 杉本
長 杉本ノ子 杉本
杉本 杉本ノ子 杉本
杉本 杉本ノ子 杉本

日 八 月 十 九 日 壬戌

榎本武揚軍艦運送船八隻ヲ奪フテ品川海
ヲ去ル
明治元

手紙
知
山
夕
何
也
山
上

月 八 月 二 十 日 癸亥

始テ銀行紙幣ヲ發行ス
明治六

午
山
山
山
山
山
山
山

火 八 月 廿 一 日 甲子

内國勸業博覽會開場式ニ臨御
明治十

出
内
山
山
山
山
山
山

水 八 月 廿 二 日 乙丑

魯國ト千島樺太交換ヲ批准セラル、ニヨ
リ條約書ニ玉璽ヲ鈴ス
明治八

山
山
山
山
山
山
山
山

土 八 月 廿 五 日 戊 辰

東京府民ノ請願ニ依リ上野公園ニ行幸ス
明治二十

請願書
上野公園
行幸
明治二十

日 八 月 廿 六 日 己 巳

聖誕日ヲ以テ天長節ト稱シ醜宴ヲ百官ニ
賜ヒ刑戮ヲ止ムルヲ布告ス
明治二十

聖誕日
天長節
醜宴
百官
賜ヒ刑戮
止ムル
布告ス
明治二十

木 八 月 廿 三 日 丙 寅

華族平民相互婚嫁ヲ許ス
明治四十

華族平民相互婚嫁ヲ許ス
明治四十

金 八 月 廿 四 日 丁 卯

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名並ニ屋
號共改稱禁止ヲ布告ス
明治四十

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名並ニ屋
號共改稱禁止ヲ布告ス
明治四十

水 八 月 廿 九 日 壬 申

荒蕪不毛ノ地ヲ人民ニ賣與スルヲ許ス
明治四

松林
大雨

木 八 月 三 十 日 癸 酉

朝鮮修信使參朝ス
明治十三

松林
改政

月 八 月 廿 七 日 庚 午

今上即位
明治元

伊予
松林
御幸

火 八 月 廿 八 日 辛 未

穢多非人等ノ稱ヲ廢ス
明治四

松林
御幸

金 九 月 七 日 辛巳

東西二京間ノ電信線成ル 明治 五

林有為
今立以破有來金
百内ノ地ノ由金
山ノ地ノ由金
陸ノ地ノ由金

土 九 月 八 日 壬午

明治ト改元一世一元ノ制ヲ定ム 明治

林有為
林有為
林有為
林有為
林有為

水 九 月 五 日 己卯

是ヨリ先荷蘭阿珍ノ二國兵ヲ構ス軍醫監林紀ヲシテ荷蘭軍ニ從ヒ其術ヲ講究セシム 明治 六

林有為
林有為
林有為
林有為

元國ノ兵ヲ構ス
林有為
林有為
林有為

木 九 月 六 日 庚辰

皇子御名嘉仁ト被命明宮ト稱ス 明治 十二

林有為

今立以破有來金
林有為
林有為
林有為
林有為

日 九 月 九 日 癸未

午時ノ號砲ヲ設ク 明治 四

和村東一
今立吐
形金白
大八
出

日 九 月 十 日 甲申

島津久光積年ノ功勞ヲ賞シ籍ヲ分テ華族ニ班ス 明治 四

和村東一
和村東一
和村東一
和村東一

日 一 十 月 九 日 乙酉

利息制限法ヲ定ム 明治 十

和村東一
和村東一
和村東一
和村東一

日 二 十 月 九 日 丙戌

鳥取縣ヲ置ク 明治 十四

和村東一
和村東一
和村東一
和村東一

木 九 月 十 三 日 丁 亥

府縣ニ令シ賊徒ノ赦令ニ漏タル者ヲ放免
セシム 明治 五

林末 三島山 巳子 出部
山 下 高 河 田 三 重 也
返 礼 事 柄 等 事
午後三十九トハ
夜林末

金 九 月 十 四 日 戊 子

僧侶ヲシテ姓氏ヲ稱セシム 明治 五

快 林 末 三 島 山 巳 子
出 部 三 重 也
山 下 高 河 田 三 重 也
返 礼 事 柄 等 事
午後三十九トハ
夜林末

土 九 月 十 五 日 己 丑

使ヲ七道ニ遣シ始テ田租法ヲ定ム 慶 雲 三

使 七 道 二 遣 始 テ 田 租 法 ヲ 定 ム
三 慶 雲
吉 井 土 方 南 部 等 事
夜林末

日 九 月 十 六 日 庚 寅

持節大使藤原常嗣唐ヨリ還ル 承 和 六

持 節 大 使 藤 原 常 嗣 唐 ヨ リ 還 ル
六 承 和
吉 井 土 方 南 部 等 事
夜林末

七〇

月九十月七日辛卯

東京府内ノ乞丐者ヲ舊里ニ復歸シ再ヒ管
外ニ出ル丁勿ラシム（養疾老幼ハ此）明治
二

井上陳心
長子高徳
長女高徳
長子高徳
長女高徳
長子高徳
長女高徳
長子高徳
長女高徳
長子高徳
長女高徳

火九十月八日壬辰

判任以下羽織袴ヲ通常禮服ニ代用スルヲ
許ス（明治）
十

若他
林
若他
林

水九十月九日癸巳

凡ソ訴訟曲ニ歸スル者ヲシテ其費ヲ償辨
セシム（明治）
五

土方左井
三十一
二

木九十月二日甲午

大藏省證券條例ヲ制定ス（明治）
十七

大藏省
林
若他
林

金 九 月 廿 一 日 乙未

神奈川縣ヲ置ク 明治 元

出都 林島

海上 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
早金 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
長政 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

土 九 月 廿 二 日 丙申

始メテ天長節ノ儀ヲ行フ 明治 元

長政 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
長政 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

日 九 月 廿 三 日 丁酉

私ニ銃砲彈藥ノ販賣ヲ禁ス 明治 五

林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
長政 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
長政 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

月 九 月 廿 四 日 戌戌

鹿兒島賊徒平ク 明治 十

林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
長政 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
長政 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
林島 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

墨刑ヲ廢ス 明治三

火 九 月 廿 五 日 己 亥

林有造 木下 考 徳 行 殿
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
ケイコト 入
カクシ 考 考 考 考
七 考 考 考 考 考 考
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
九 月 廿 五 日 己 亥
林有造 木下 考 徳 行 殿
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
ケイコト 入
カクシ 考 考 考 考
七 考 考 考 考 考 考

諸寺院ノ士族已下ヲ雇使スルヲ許ス 明治四

木 九 月 廿 七 日 辛 丑

諸寺院ノ士族已下ヲ雇使スルヲ許ス 明治四
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
ケイコト 入
カクシ 考 考 考 考
七 考 考 考 考 考 考
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
九 月 廿 五 日 己 亥
林有造 木下 考 徳 行 殿
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
ケイコト 入
カクシ 考 考 考 考
七 考 考 考 考 考 考

王政復古ノ功臣ニ賞典祿ヲ賜フ 明治二

水 九 月 廿 六 日 庚 子

王政復古ノ功臣ニ賞典祿ヲ賜フ 明治二
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
ケイコト 入
カクシ 考 考 考 考
七 考 考 考 考 考 考
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
九 月 廿 五 日 己 亥
林有造 木下 考 徳 行 殿
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
ケイコト 入
カクシ 考 考 考 考
七 考 考 考 考 考 考

今上親土宣下 萬延元

金 九 月 廿 八 日 壬 寅

今上親土宣下 萬延元
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
ケイコト 入
カクシ 考 考 考 考
七 考 考 考 考 考 考
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
九 月 廿 五 日 己 亥
林有造 木下 考 徳 行 殿
出 勤 少 午 給 多 氏 子 院
ケイコト 入
カクシ 考 考 考 考
七 考 考 考 考 考 考

水 十 月 三 日 丁未

宮内省中式部寮ヲ廢シ更ニ式部職ヲ置ク
明治十七

Handwritten text in cursive style, likely a report or official communication, starting with '宮内省'.

木 十 月 四 日 戊申

墓地及埋葬取締規則ヲ定ム
明治十七

Handwritten text in cursive style, likely a regulation or official notice regarding burial grounds.

月 十 一 日 乙巳

英國ト郵便爲換定約本日ヨリ施行ス
明治十四

Handwritten text in cursive style, likely a notice regarding the implementation of a postal exchange agreement with Britain.

火 十 月 二 日 丙午

舊銅貨天保通寶明治十九年十二月限通用
禁止ヲ布告ス
明治十七

Handwritten text in cursive style, likely a notice regarding the withdrawal of old copper coins (Tenpō Tsūhō).

Handwritten vertical text on the right margin, possibly a date or reference: 十月十日

十月十日

百五十四

火 十月 九 日 癸丑

開成學校新築成ル天皇親臨シテ開業式ヲ行フ明治十六

杉林 出勤
 大八 杉林 出勤
 杉林 出勤
 園下 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤

水 十月 十 日 甲寅

車駕敦賀港ヲ巡覽ス是日令シテ舊水戸藩士武田正生等ノ慕ヲ祭ラシメ金幣ヲ賜フ明治十一

杉林 出勤
 園下 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤

木 十月 一 日 乙卯

御服并御馬具制御改定本年天長節ヨリ服御ノ旨ヲ令ス明治十三

杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤

金 十月 二 日 丙辰

明治二十三年ヲ期シ國會開設ノ勅諭アリ明治十四

杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤
 杉林 出勤

百五十五

土 十 月 十 三 日 丁巳

車駕東京ニ至リ江戸城ヲ以テ皇居トナシ
東京城ト稱ス
明治元

早起 平定 柳ノ葉
梅ノ葉 立花 余 柳ノ葉
七日 書 筆 正 年
園下 三人 来 好 此 十
まゝ 法 井 上 記 彦 彦
多 一 百 七 十 三 門
禁 門 旁 七 十 三 門
三 日 休 心 侍 臣 等 盛 衰
多 九 日 休 心 侍 臣 等
七 日 休 心 侍 臣 等

日 十 月 十 四 日 戊午

民庶ノ釜山港ニ赴キ互市スルヲ許ス
明治九

終日 在 宅 終 日 在 宅
可 祝 家 福 来 好 与 不 満 言 語
園下 三人 来 好 此 十
七 日 休 心 侍 臣 等
多 九 日 休 心 侍 臣 等
七 日 休 心 侍 臣 等

月 十 月 十 五 日 己未

大將軍徳川慶喜政權ヲ奉還ス
慶應三

雨 林 来 抄 亦 亦 不 平 氣
出 部 外 力 體 進 水 式
皇 帝 以 風 氣 皇 后 行 禮
正 方 大 臣 等 心 侍 臣 等
多 九 日 休 心 侍 臣 等
七 日 休 心 侍 臣 等

火 十 月 十 六 日 庚申

魯國皇子「アレキシス」來リ延遠館ニ館ス
明治五

皇 帝 以 風 氣 皇 后 行 禮
正 方 大 臣 等 心 侍 臣 等
多 九 日 休 心 侍 臣 等
七 日 休 心 侍 臣 等

水 十 月 十 七 日 辛酉

天皇皇后華族養舎ニ臨ミ名ヲ學習院ト賜
フ
明治十

天皇皇后華族養舎ニ臨ミ名ヲ學習院ト賜
フ
明治十
天皇皇后華族養舎ニ臨ミ名ヲ學習院ト賜
フ
明治十
天皇皇后華族養舎ニ臨ミ名ヲ學習院ト賜
フ
明治十

木 十 月 十 八 日 壬戌

天皇延遠館ニ臨ミ魯國皇子ヲ慰問ス
明治五

天皇延遠館ニ臨ミ魯國皇子ヲ慰問ス
明治五
天皇延遠館ニ臨ミ魯國皇子ヲ慰問ス
明治五
天皇延遠館ニ臨ミ魯國皇子ヲ慰問ス
明治五

金 十 月 十 九 日 癸亥

皇族ハ官ニ在ルモ職務ニ非サルヨリハ遇
スルニ本族ヲ以テシ華族ハ六等官ニ準ス
ルノ規則ヲ定ム
明治四

皇族ハ官ニ在ルモ職務ニ非サルヨリハ遇
スルニ本族ヲ以テシ華族ハ六等官ニ準ス
ルノ規則ヲ定ム
明治四
皇族ハ官ニ在ルモ職務ニ非サルヨリハ遇
スルニ本族ヲ以テシ華族ハ六等官ニ準ス
ルノ規則ヲ定ム
明治四

土 十 月 二 日 甲子

工部省ヲ置ク
明治三

工部省ヲ置ク
明治三
工部省ヲ置ク
明治三
工部省ヲ置ク
明治三

日 十 月 廿 一 日 乙丑

太政官中ニ參事院ヲ置ク明治十四

兩藩... 三島... 依正... 三位... 岩田... 大... 水... 大... 大...

日 十 月 廿 二 日 丙寅

民庶ノ金穀訴訟成辰以前ニアルモノハ受理セサルヲ布告ス明治十五

山崎... 出勤... 岩田... 退下... 大...

火 十 月 廿 三 日 丁卯

東征大總督熾仁親王上表シテ東北平定ヲ奏シ其任ヲ解カント請フ明治元

三島... 三島... 三島...

退下... 吉井...

水 十 月 廿 四 日 戊辰

熊本縣士大野鐵平等黨ヲ聚メ火ヲ放チテ鎮臺ヲ襲フ明治九

三十七... 出... 母... 夜...

水 十 月 卅 一 日 乙 亥

辦理大臣大久保利通清國ト蕃地ノ處分ヲ
訂約ス明治七

石井
林虎
加ハルヤ
江若
英園

加ハルヤ
江若
英園

月 十 月 廿 九 日 癸 酉

神官ハ祭服ヲ以テ大禮服ニ換用セシム明治六

神官ハ祭服ヲ以テ大禮服ニ換用セシム
乾
昨
午
石
土
下

火 十 月 三 日 甲 戌

前原一誠ノ位記ヲ禰キ命シテ之ヲ討ス明治九

前原一誠ノ位記ヲ禰キ命シテ之ヲ討ス
岩倉具定破位爵位局長
出勤
上
カ
シ

△

木 十 一 月 一 日 丙子

新潟及夷港ニ外國人居留ヲ定ム
三 慶應

金 十 一 月 二 日 丁丑

東京府下郡區ノ制ヲ定ム
十一 明治

下ノ郡區ヲ定ム
伊達公ト新ノ見
星野ト也
井上陳政ト新ノ見
ノ序ト也

計 會 月 十					
日次	受方摘要	円	拂方摘要	円	
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					
十三					
十四					
十五					
十六					
十七					
十八					
十九					
二十					
廿一					
廿二					
廿三					
廿四					
廿五					
廿六					
廿七					
廿八					
廿九					
三十					
卅一					
總計					
殘高					
比較合計					

土 十 一 月 三 日 戊 寅

盲人ノ職名ヲ廢ス 明治 四

長中島
杉野杉原

午後三時
午後三時
午後三時
午後三時
午後三時
午後三時
午後三時
午後三時
午後三時
午後三時

日 十 一 月 四 日 己 卯

國內平定ヲ各國公使ニ告ケ局外中立ヲ解
カシム 明治 元

雨降り
雨降り
雨降り
雨降り
雨降り
雨降り
雨降り
雨降り
雨降り
雨降り

月 十 一 月 五 日 庚 辰

日本鐵道會社ノ創設ヲ許可ス 明治 十四

出勤
出勤
出勤
出勤
出勤
出勤
出勤
出勤
出勤
出勤

火 十 一 月 六 日 辛 巳

治河使ヲ置キ大ニ水利ヲ修治スルヲ布告
ス 明治 元

治河使
治河使
治河使
治河使
治河使
治河使
治河使
治河使
治河使
治河使

水 十 一 月 七 日 壬 午

平民ノ官ニ在ル者其家人ヲ士族ニ準ス
明治五年

出勤
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田

木 十 一 月 八 日 癸 未

水星太陽ヲ經過ス
明治十四

出勤
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田

金 十 一 月 九 日 甲 申

太陰曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用ヒ十二月三日ヲ
以テ明年一月一日トナス
明治五年

出勤
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田

土 十 一 月 十 日 乙 酉

内務省ヲ置ク
明治六年

出勤
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田
山形 知田 平 田

山形 知田 平 田
百七十一

日 一 十 月 一 十 日 丙 戌

前原一誠等就縛ノ旨ヲ布告ス 明治 九

山王様御祭

徳行の入水被服所
午後御立上り
可成り人御前
万々御立上り
山王御祭

月 一 十 月 二 十 日 丁 亥

大禮服通常禮服ノ制ヲ定メ衣冠ヲ以テ祭 服トナス 明治 五

雨毛布令之出立花
まのさの形ハトセ又云
徳行御立上り
母七路十路御立上り
午後御立上り
中山御立上り
まのさの形ハトセ又云

火 一 十 月 三 十 日 戊 子

西征戦死者ヲ招魂社ニ祭ル 明治 十

噴岩念五立花
生々心願
系御立上り
系御立上り

退下衣冠余封食位
天衣御立上り
系御立上り

水 一 十 月 四 十 日 己 丑

僧侶ノ托鉢ヲ禁ス 明治 五

不果好所儀
御立上り
香川三ノ中
合のり御立上り
思有御立上り
上杉御立上り
山王御立上り
御立上り

木 十 月 十 日 庚 寅

神武天皇即位ノ年ヲ以テ紀元ト爲ス
明治 五

時 出 勤
母 山 崎 氏 曰 此 川 親 行
此 事 危 上 人 危 殆 殆 矣
孫 皇 大 乘 華 德 德 德
為 不 卜 卜 火 火 火 火

金 十 月 十 日 辛 卯

釋月照薩摩海ニ投シテ死ス
安政 五

美 味 口 味 甚 多 矣
尾 子 尾 子 尾 子 尾 子
出 勤 長 出 次 矣
○ 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
中 山 段 〇 〇 〇 〇 〇 〇
徳 多 多 多 多 多 多 多
四 五 十 沙 車 四 先 布
一 田 中 車 力 月
三 十 九 上 古 利

土 十 月 十 日 壬 辰

大嘗祭ヲ皇城内ニ行フ
明治 四

時 正 三 十 七 上 三 十 七
繼 川 余 亦 亦 亦 亦 亦
出 勤 亦 亦 亦 亦 亦
時 亦 亦 亦 亦 亦
皇 族 大 臣 親 任 任
名 為 亦 亦 亦 亦 亦
視 齋 知 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

日 十 月 十 日 癸 巳

清國軍艦始テ長崎ニ至ル
明治 八

皇 族 大 臣 親 任 任
名 為 亦 亦 亦 亦 亦
視 齋 知 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

月 一 十 月 十 九 日 甲 午

外國政府ノ賞牌ヲ受ケシ者ハ其事由ヲ稟
シ許可ヲ得テ後之ヲ佩ヒシム 明治 八

大八ノ弟ニ書ク
謝書アリ
退下牛馬河川
別三四大
心
有

火 一 十 月 二 十 日 乙 未

皇后西京ニ行啓ス是日東京ヲ發ス 明治 九

出都
花房
退下
村
伊
老
女
夜

水 一 十 月 一 廿 日 丙 申

勅任ノ府知事縣令ハ三等官ニ定ム 明治 十 一

天子
雨
山
老
公
長
山
老
公
長
山
老
公
長

木 一 十 月 一 廿 日 丁 酉

全國ヲ分テ三府七十二縣トナシ郡縣ノ制
始メテ定ル 明治 四

出都
山
老
公
長
山
老
公
長
山
老
公
長

金 十 月 廿 三 日 戊戌

英吉利公使米利堅公使李漏生公使朝見并
二東幸ヲ賀ス明治

始晴朝雲紫林事多
石堂惟一木乃氣甘時
刀二本器の製法
二器三器供
長崎米長崎米
虎大甲の目録
鴨の言の通
お政の言の通
お政の言の通
お政の言の通

土 十 月 廿 四 日 亥己

富嶽噴火シ寶永山涌出ス寶永

晴林の言の通
可視の言の通
昨日の言の通
昨日の言の通
昨日の言の通
昨日の言の通
昨日の言の通
昨日の言の通

日 十 一 月 廿 五 日 庚子

神武天皇ヲ皇城內ニ祭リ紀元ヲ定ムルヲ
告ク明治

神武天皇ヲ皇城內ニ祭リ紀元ヲ定ムルヲ
告ク明治

月 十 一 月 廿 六 日 辛丑

辨理大臣大久保利通清國ヨリ歸朝ス明治

辨理大臣大久保利通清國ヨリ歸朝ス明治

火 一十月廿七日 壬寅

詔シテ車駕西還成功ヲ伊勢太廟ニ告ケ明年再ヒ東幸スルヲ百官ニ宣諭ス

皇朝五十年起... 山田官宅... 吉野... 出勤... 大河内信古... 櫻木東

水 一十月廿八日 癸卯

幕府江戸鐵砲洲ヲ以テ外國人居地ト爲シ居民ノ其家屋ヲ貸與スルヲ許ス

朝... 官... 出勤... 櫻木東

木 一十月廿九日 甲辰

東京女子師範學校開業式ヲ行フ

出勤... 櫻木東... 元田... 中... 櫻木東

上京後序事

金 一十月三十日 乙巳

土地賣買讓渡規則ヲ定ム

出勤... 櫻木東... 退下... 大... 櫻木東

土 十 二 月 一 日 丙 午

詔シテ全國徴兵ノ制ヲ設ク
 明治 五
 勝越三所味有太恩
 林来原正七
 御紙
 石原
 後山
 長治

日 十 二 月 二 日 丁 未

僧澤庵寂ス年七十三 正保 二
 車
 向島
 石山
 百八十三

計 會 月 一 十

日次	受方摘要		拂方摘要	
	円		円	
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
總計				
殘高				
比較合計				

月 二十 日 三月 申 戊

本日ヲ以テ明治六年一月一日ト定ム
明治 五

如梅牙
出野古
山部古
山部古
山部古
山部古

夜石
下
山部古
山部古
山部古

火 二十 日 四月 酉 己

豐臣秀吉造ル所ノ京都方廣寺大佛殿火
り慶長 七

如梅牙
出野古
山部古

土方大臣
山部古
山部古

山部古
山部古
山部古

水 二十 日 五月 戌 庚

令義解ヲ施行ス
承和 元

如梅牙
出野古
山部古
山部古

山部古
山部古
山部古

山部古
山部古
山部古

木 二十 日 六月 亥 辛

水戸黃門光國卒ス
十三 元 諱

如梅牙
出野古
山部古
山部古

山部古

奥羽二國ヲ分テ七國トナス 明治 元

金 二十 月 七 日 壬子

出勤
井上 敬
上野 敬
午後 五時
山崎 敬
吉井 敬
前村 敬

勅使ヲ發シテ東北平定ヲ太廟ニ告ク 明治 元

土 二十 月 八 日 癸丑

出勤
井上 敬
上野 敬
午後 五時
山崎 敬
吉井 敬
前村 敬

皇族ノ少壯者ニ命シテ海陸軍事ヲ習ハシム 明治 元

日 二十 月 九 日 甲寅

皇族ノ少壯者ニ命シテ海陸軍事ヲ習ハシム 明治 元

親王二世已下賜姓ノ制ヲ立ツ 明治 元

月 二十 月 十 日 乙卯

親王二世已下賜姓ノ制ヲ立ツ 明治 元

火

二十二月十日

平將門下野ヲ陥ル天慶二

平將門下野ヲ陥ル
天慶二
平將門下野ヲ陥ル
天慶二
平將門下野ヲ陥ル
天慶二

水

二十二月十日

司法省法學校正則科ヲ文部省ノ所轄ニ屬シ東京法學校ト稱ス明治十七

司法省法學校正則科ヲ文部省ノ所轄ニ屬シ東京法學校ト稱ス明治十七
司法省法學校正則科ヲ文部省ノ所轄ニ屬シ東京法學校ト稱ス明治十七

木

二十二月三十日

大審院裁判所職員考績條例ヲ定ム明治十七

大審院裁判所職員考績條例ヲ定ム明治十七
大審院裁判所職員考績條例ヲ定ム明治十七

金

二十二月十四日

凡ソ私財ヲ以テ疏水、修路、架橋等ノ便利ヲ興ス者ハ路錢ヲ權收スルヲ許ス明治十四

凡ソ私財ヲ以テ疏水、修路、架橋等ノ便利ヲ興ス者ハ路錢ヲ權收スルヲ許ス明治十四
凡ソ私財ヲ以テ疏水、修路、架橋等ノ便利ヲ興ス者ハ路錢ヲ權收スルヲ許ス明治十四

土 二十月五日 庚申

東海鎮守府ヲ相摸國三浦郡横須賀ニ移シ
横須賀鎮守府ト改稱ス明治十七

贈中野
嗚呼此は故郷也
午後四時
大孔股持系
可純
午後五時
午後六時
午後七時
午後八時
午後九時
午後十時
午後十一時
午後十二時

日 二十月六日 辛酉

僧尼ト公認スル者ハ諸宗教導職試補以上
ニ限ルヲ令ス明治十九

可純
午後五時
午後六時
午後七時
午後八時
午後九時
午後十時
午後十一時
午後十二時

月 二十月七日 壬戌

百官ノ靴履上廳ヲ許ス明治十四

雨相晴寒
出勤
午後五時
午後六時
午後七時
午後八時
午後九時
午後十時
午後十一時
午後十二時

火 二十月八日 癸亥

華士族卒ノ農工商業ヲ營ムヲ許ス明治十四

出勤
午後五時
午後六時
午後七時
午後八時
午後九時
午後十時
午後十一時
午後十二時

德川家達ニ令シ紅葉山祖先ノ廟ヲ其封地ニ移サシム
明治元

水 二十月十九日 甲子

出物... 紅葉山祖先ノ廟ヲ其封地ニ移サシム
... 明治元

華族就學規則ヲ定メ明治十八年ヨリ施行ス
明治十七

木 二十月二十日 乙丑

華族就學規則ヲ定メ明治十八年ヨリ施行ス
... 明治十七

參議伯爵井上馨ヲ特派全權大使トシテ朝鮮國へ差遣ス
(廿二日)明治十七

金 二十月廿一日 丙寅

參議伯爵井上馨ヲ特派全權大使トシテ朝鮮國へ差遣ス
... 明治十七

從前ノ職制ヲ廢シ内閣總理大臣及諸省大臣ヲ置キ内閣ヲ組織ス
明治十八

土 二十月廿二日 丁卯

從前ノ職制ヲ廢シ内閣總理大臣及諸省大臣ヲ置キ内閣ヲ組織ス
... 明治十八

日 二十 月 廿 三 日 戊辰

内閣改制ノ詔ヲ發セラル 明治十八

此の詔は、内閣の改組を命じたもので、
大隈重信が内閣総理大臣に就任し、
山縣有朋が外務大臣、大谷友右衛門が
文部大臣、小幡虎四郎が農商務大臣、
大隈久徳が海軍大臣、大隈武敏が
陸軍大臣に任命された。この詔は、
明治十八年二月二十三日、すなわち
戊辰年正月二十三日に発せられた。

月 二十 月 廿 四 日 己巳

寡婦ノ贅婿ヲ納ル、ヲ許ス 明治十六

この詔は、寡婦が贅婿を納めることを許したものである。
明治十六年二月二十四日、すなわち
己巳年正月二十四日に発せられた。

火 二十 月 廿 五 日 庚午

源頼義源齊頼ヲシテ安倍貞任ヲ討セシム 天喜五

源頼義源齊頼は、安倍貞任を討つた。
この戦いは、天喜五年二月二十五日、
すなわち庚午年二月二十五日に
行われた。

水 二十 月 廿 六 日 辛未

重服者ノ賀正ヲ許ス 明治四

この詔は、重服者（喪に服する者）が賀正（正月の賀儀）を許したものである。
明治四年二月二十六日、すなわち
辛未年二月二十六日に発せられた。

木 二十 月 廿 七 日 壬申

火藥取締規則及爆發物取締規則ヲ制定ス
明治十七

御
夜明けの光は白鳥の如く
P. 10

金 二十 月 廿 八 日 癸酉

徴兵令ヲ改正ス
明治十六

出知の如くは
中絶傳下
桂港香の
明の飛城
多立流
兵部省

土 二十 月 廿 九 日 甲戌

百官ヲシテ歳終ノ慶賀ヲ申セシム
明治二十

御
夜明けの光は白鳥の如く
P. 10

日 二十 月 三 十 日 乙亥

是月諸官省門前正月松飾手輕ニ取設可キ
旨辨官ヨリ達ス
明治二十

御
夜明けの光は白鳥の如く
P. 10

子丙 日一十三月二十 月

天皇賞牌親佩式ヲ行フ又賞牌ヲ諸親王ニ
授ケラル 明治 八

七宮内親王等
御所御用掛
及御所御用掛
上野御所御用掛
常陸守御所御用掛
長谷川御所御用掛

横山町

西洋物問屋

相留

洋服問屋

西洋物問屋

堀越

丁銀

丁甚

十二月會計

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
卅一				
總計				
残高				
比較合計				

明治廿一年大總計

月次	受方摘要	円		拂方摘要	円	
一月						
二月						
三月						
四月						
五月						
六月						
七月						
八月						
九月						
十月						
十一月						
十二月						
總計						
殘高						
比合						
較計						

明治二十年九月二十日出版屆

印刷局

定價金拾錢

出差三年例准假歸六月

薪俸照常

支罰金餘錢

甲

隴

同

蘇州

民國二十二年六月二十日出國

貴州何縣鄉

浙江海鹽縣

上海去程一日

北京

本町三自備地金田時針師

師

フシヤ

ヤ

小林
義雄

友田
義雄

柳
今

川
村
吉
柳
園

下
川
池

